

平成 28 年度  
日常調査報告書  
(中間報告)

テーマ

「定住促進にむけての環境づくり」

「住みよい市街地をめざして」

平成 29 年 3 月  
高根沢町議会建設産業常任委員会

# 建設産業常任委員会の

## 日常調査報告（中間報告）

～～ はじめに ～～

平成 28 年 4 月、建設産業常任委員会は新しいメンバーで組織されましたが、これまでの取り組みを踏まえ、平成 28 年度及び 29 年度のテーマを、「定住促進に向けての環境づくり」と「住みよい市街地をめざして」の二つに設定し、活動を開始しました。

「定住促進にむけた環境づくり」については、町が掲げる「高人口 4 万人構想」を視野に入れ、人口減少や少子高齢化、市街化調整区域における若者の流出等の対策に向け、優良田園住宅の調査・研究に力を入れることとしました。

また、「住みよい市街地をめざして」については、安心して暮らすことのできるまちづくり・地域づくりに向け、都市型災害の問題解決への調査・研究にも力を注ぐこととしました。

この報告書（中間報告）は、平成 28、29 年度の 2 ヶ年に亘る事業計画に基づき、28 年度に取り組んだ事業等を報告するものです。

## 1 山形県天童市の事例から

建設産業常任委員 6 名は、平成 28 年 10 月 31 日、山形県天童市の優良田園住宅の取り組みについて調査してまいりました。

将棋駒の生産で知られる天童市は、昭和 33 年 10 月に市制施行され、113.01 平方キロメートルに、人口約 6 万 2 千人が住む、県都山形市の北に位置する市です。

市では、積極的に土地区画整理事業を進める一方で、人口減少傾向にある市街化調整区域において、既存の田園集落と調和、協調されるかたちで、田園集落に新たに田園型住宅を供給するため、平成 15 年に天童市優良田園住宅の建設の促進に関する基本方針を策定しました。この方針のポイントは、開発事業者の分譲計画のほか、自己居住用の戸建て住宅を建てたいという個人の計画についても、認定の対象としていること、また、市内の特定の地域などを指定することなく、既存集落の全てにおいて計画立案を可能としていることです。

この方針により、平成 15 年から平成 28 年 10 月までに、約 4 万 3 千 7 百平方メートルの区域に、67 件の計画を認定し、110 棟が建

設されました。天童市のこれらの取り組みは、人口が減少し、地域活力の減退などが懸念される田園集落において、様々な制度を活用することにより、適正な規模まで人口を回復させ、地域活力の向上を図っているものであり、豊かな自然環境の中で、ゆとりある生活ができるように工夫されたものでした。

天童市におけるこれらの取り組みは、今後、人口増に向けた本町での取り組みの方向性を示唆するものであると感じるとともに、当委員会においても、視察研修したことをベースに、29年度においても検討を加えていきたいと思えます。

## 2 山形県鶴岡市の事例から

平成 28 年 11 月 1 日、委員 6 名は、農業 6 次産業化を積極的に推進している鶴岡市の取り組みを調査してまいりました。

1311.53 平方キロメートルの広大な面積に、人口約 13 万 5 百人が住む鶴岡市は、豊かな自然に恵まれた風土や、独特の農法によって受け継がれてきた在来作物や多様な食文化が世界的に認められ、平成 26 年 12 月に、ユネスコ創造都市ネットワーク食文化部門に、日本の都市として初めて加盟が認定されました。

鶴岡市の 6 次産業化への取り組みは早く、農商工等連携促進法や 6 次産業化法の成立時期に合わせ、平成 22 年 11 月に「つるおか農商工連携総合推進協議会」を設立しました。

この協議会は、農林漁業者と、商工、観光業者等の連携による新たな地域ビジネスや事業開発、特産物の販路拡大に向けた取り組みが活発に展開される環境づくりを進めるとともに、高等教育研究機関の先端研究を活かした農林水産物の高付加価値化による有利販売を促進することにより、産業の振興と地域の活性化を図ることが目的です。

この協議会を中心に、鶴岡市6次産業化ファーストステップ推進事業補助金の制定や、ガイドブックの作成、メールマガジンの配信、コーディネーターの配置、相談窓口の常設などの事業が進められました。

これらの環境が整ったことにより、生産者は、積極的に国や県、市の補助事業を活用し、平成21年から今年の10月までに、だだ茶豆菓子、自然薯パウダー、地鶏加工品、贈答用バラ風呂セットなど、64件の事業が、生産者による6次産業化として実施されています。

鶴岡市役所で説明を受けた後、フルーツタウン構想により整備を進めた、「産直あぐり」にて研修を行いました。この施設は、平成9年に開設した農産物直売所「産直あぐり」をはじめ、地場産の食材を利用し、ジュースやジャム、ゼリーやピューレなどのヒット商品を製造している「加工あぐり」、地域の生産者が作った旬の野菜や果物を楽しむことができる農家レストランの「食彩あぐり」などを併設し、生産者と消費者がともに活気にあふれる施設になりました。

株式会社「産直あぐり」の代表取締役澤川氏の説明の中で力説さ

れた、「生産者は経営者であれ！」との言葉は、この施設の運営方針、生産者の商品開発や売り手の意欲、施設の稼働状況を的確に表しているものでした。

### 3 (株)元気あっぷむらとの意見交換から

高根沢町外や栃木県外の先進地事例の研究だけではなく、町内の施設にも目を向け、まちづくりを進めて行こうと、当委員会では、本町の食と健康の拠点「元気あっぷむら」を運営する、株式会社元気あっぷ公社と意見交換を行いました。この意見交換会は、本町を代表する施設である、「元気あっぷむら」を取り巻く現状について、継続的に調査をしていこうとの方針を維持しているもので、本年2月22日に、株式会社、元気あっぷ公社の<sup>かみなが</sup>神長代表取締役及び社員の方々と、元気あっぷむらの活性化に向けた意見交換を行いました。

神長代表からは、町内産の農作物を使用した、新メニュー開発の取り組みや、自転車関連のイベントの開催など、元気あっぷむらの魅力向上に向け取り組んでいる現状について説明を受けました。

特に、昨年、桑窪地区で生産された金胡麻を使用したメニューに関し、数量限定販売の、金胡麻坦々麺が、大好評とのことでした。

また、昨年10月8日に開催した議会報告会において、参加者から提言のあった、「元気あっぷむらへの送迎バスの停車場所を宝積寺駅だけでなく、役場なども含めて増やしたらどうか」との要望を説

明したところ、神長代表から「平成25年12月までは、運行路線上の各地区で乗り降りしてもらっていたが、運行路線が1車線のため、バスが停車すると事故を誘発するとの苦情が多数寄せられたことから、宝積寺駅での乗り降りに限定した。今後、公共交通との関係を考えながら、対応を考えていく」との回答を得ております。

意見交換会終了後は、施設に隣接する親水公園や、体験の森のシクロス場を視察、元気あっぷむらの持つ可能性に期待を膨らませました。

## 4 委員会活動の記録

平成 28 年 4 月 26 日	日常調査内容・スケジュール検討
平成 28 年 6 月 10 日	打ち合わせ会
平成 28 年 8 月 10 日	日常調査、議会報告会内容検討
平成 28 年 9 月 13 日	日常調査、先進地視察先検討
平成 28 年 10 月 31 日	山形県天童市視察研修
平成 28 年 11 月 1 日	山形県鶴岡市視察研修
平成 28 年 12 月 9 日	日常調査（元気あっぷむら）検討
平成 29 年 2 月 22 日	<b>(株)元気あっぷむらとの意見交換</b>

上記のとおり、中間報告します。

平成 29 年 3 月 10 日

高根沢町議会議長 加藤 貞夫様

高根沢町議会建設産業常任委員会

委員長 加藤 章

副委員長 鈴木伊佐雄

委員 阿久津信男

委員 野中 昭一

委員  
委員

横須賀忠利  
齋藤 武男